

令和 6 年 12 月 12 日

◆谷口かずふみ委員

公明党の谷口でございます。今日は 2 項目にわたってお伺いしていきたいと思ひます。

まず、県営団地におけるシニア合唱事業について伺ってきたいと思ひますが、私の地元のほうにもいちょう下和田団地が参加をされておりますけれども、まず、この事業を始めたきっかけについて教えてください。

◎マグカル担当課長

まず、高齢化が進みコミュニティの活力が低下している県営団地において、団地住民を対象に合唱事業を行うことで、文化芸術の振興とともに団地におけるコミュニティの活性化、未病改善など、誰もが健康で安心して生き生きと生活できる健康団地の推進に向けて、令和 4 年度に事業を開始いたしました。事業の実施に当たりましては、県営団地を所管する県土整備局から、県営団地のうち合唱を実施できる集会所のあるなしや自治会の協力体制はどういったものかなど情報を提供してもらいまして、それを事業を実施する団地の選定ですとか、あと事業実施に向けた団地側との調整を両局で連携して行っております。

◆谷口かずふみ委員

分かりました。実際、今年度予算はどれくらい使われていて、令和 4 年度からのこの事業の開始からどんな実績があったのか、端的に教えてください。

◎マグカル担当課長

今年度の予算でございますが、予算約 1,600 万円で、令和 4 年度から県内の 10 の県営団地で月に 1 回程度の事業を行っております。本事業は、高齢者の合唱指導の実績がある一般社団法人ユースクラシックに委託をいたしまして、プロの声楽家などを講師として各団地に派遣しまして、合唱の練習を行うとともに、自治会と年間スケジュールなどを調整しながら取り組んでおります。実績としましては、今年度 10 月末現在の数字でございますが、参加者が延べ 1,258 名の方に参加いただいている状況でございます。

◆谷口かずふみ委員

分かりました。委託をしてやられているということですが、この事業名がシニア合唱というふうになっているので、イメージからすると高齢者が集まって歌の練習をしている、そういうイメージなわけなんですけれども、実際には、今日先行会派の方からの質問もありましたけれども、実際どういう事業なのか、また、どうやって進めているのか、具体的なちよっと内容を教えてくださいと思ひます。

◎マグカル担当課長

事業の進め方といたしましては、まず、最初のステップとして各団地の集会場  
でプロの音楽家によるバイオリンやピアノなどの楽器のコンサートを開催して  
います。そこで実際、生の楽器の音に触れていただいたこうした経験を通じて、  
身近で音楽に触れていただき音楽の楽しさというのを実感していただくことが、  
まず最初のステップとして始めさせていただいています。

次のステップとしては実際に歌うということで、赤とんぼですとか、上を向い  
て歩こうのような親しみやすい歌ですね、こういったものをみんなで歌いまし  
て、集まった方と周囲との親睦を深めながらチームワークを高めていきます。

ある程度声を出して歌うということに慣れた段階で、その次のステップとし  
て合唱の練習、これを開始いたします。

その後、月1回程度合唱の練習を重ねまして、年度末に近い時期になりますけ  
れども、10団地で練習している住民の方が県立音楽堂に一堂に集まりまして、  
日頃の練習の成果を披露する成果発表会というものを行っております。今年度  
は、来年の1月22日に成果発表会を行う予定でございます。

◆谷口かずふみ委員

この練習は、大体1回当たり何時間程度やられているのかとか、あと、そのコ  
ンサートはコンクール形式なのか、発表会にするのかとか、ちょっとその辺、分  
かれば結構ですけれども教えてください。

◎マグカル担当課長

練習の時間ですけれども、ちょっと団地によって少し人数だとか大きさだとか  
曲目だとかというところで、ちょっとまちまちのところがあります。すみませ  
ん。

成果発表会のほうなんですけれども、コンクール形式ではございません。集ま  
っていただいた10団地の方が県立音楽堂で一緒になって歌って、日頃の成果を  
発表するという会でございます。順位はつけません。

◆谷口かずふみ委員

分かりました。実際4年、5年、6年ももうそろそろ発表会が1月にあるわけ  
で、ほぼ3年にわたって実施してきているんですけれども、参加している皆さん  
の反応というのはどんなものなのか、具体的な意見も含めて伺いたいと思  
います。

◎マグカル担当課長

実際に参加している方なんですけれども、事業の立てつけが三つありまして、  
コンサートを聞く、それから合唱の練習をする、それから発表会をする。まず、  
コンサートをお聞きになった方は、生のバイオリンとかピアノを実際に聞けて、  
すごく心に響いて気分が軽くなったというような好意的なお話を伺っています。  
合唱の練習に実際参加された方には、数十年ぶりに歌うことができうれしか  
ったですとか、あと、講師が音楽家で丁寧に指導しますので、自分の声が出るよ

うになってうれしかったというような話も伺えました。成果発表会に出演した方たちからは、音楽堂で発表会していただきますので、そのままちょっと申し上げます、生きているうちにこんな大舞台に立てて歌えて、教えてくれた先生に感謝したいというような、そういったお話がございました。

◆谷口かずふみ委員

先ほど音楽堂の質問もありましたけれども、すばらしい声が響く舞台上で歌えるというのはすばらしいなと思います。

今具体的に意見を伺ったんですが、実際これやってきて、2年、3年近くやってきて、効果の部分というのはどうなのか、教えていただきたいと思います。

◎マグカル担当課長

効果といたしましては、やはりコミュニケーションが少し薄くなっているような団地で合唱で参加して集まるということで、住民同士のコミュニケーションが増えて社会参加につながったり、あと、生きがいに繋がったというふうに感じていただいている方もいらっしゃるなど、コミュニティの活性化の観点からもよい影響が広がったのではないかなと効果としては考えております。

参加された方にアンケートも取らせていただいているんですけども、御自身のお気持ちとしては、心と体が元気になった割合というものが、事業を始めた令和4年度82.3%でございました。令和5年度84.5%と上がって高い水準となっておりますので、文化芸術の面からも未病改善の取組というのが後押しできたのではないかと考えております。

◆谷口かずふみ委員

ちなみに、参加される方は、あれですか、登録して固定というふうになるのか。それとも、もう空いているときに行けば参加できるのか、練習にですね。そのちょっと確認させてください。

◎マグカル担当課長

固定ではございません。登録制ではございませんで、そのときお時間があって、ちょっとお気持ちがあれば、どなたでも参加できるという立てつけになっております。

◆谷口かずふみ委員

分かりました。

今御意見や効果を聞いてきたんですが、最後に、進めていく中で様々な課題も見えてきたのではないかなと思います。そうした課題を踏まえて、今後どのようにこの事業を展開していくのか、最後、伺いたいと思います。

◎マグカル担当課長

課題といたしましては、最初のステップのコンサートをお聞きになった方はとても楽しかったと言ってお帰りいただくんですけども、その後のじゃ合唱

練習ということになると、なかなか自信がないなどの理由で参加をためらう傾向なども見受けられています。

あと、事業の周知活動はもちろんしているんですけども、なかなか団地の中の集会所で合唱をやっているということを御存じない方もいらっしゃいます。あと、団地によっては参加する住民の方が、固定ではないんですけどもなかなか定着しないというような課題も抱えております。

そういった課題を踏まえまして今後の取組でございますけれども、まず、シニア合唱団地の取組自体、広く知っていただかないといけないということで、チラシなどをつくって団地内の掲示板、回覧板などで引き続き周知を行っていきたいと思います。

あと、参加していただいて楽しかったと言っていただけのように、どんなジャンルの歌が楽しいのかということの聞き取りも丁寧にしていきたいと思います。

あと、住民が定着するのにどうしたらいいかということで、集会所で行うので少し制約もあるんですけども、例えば固定の日時を決めて定期的にそこに集まるというようなそういう定着の仕方もあるかなということは検討したいと思っています。

あと、一部の団地では、団地住民以外の近隣の住民の方も参加していただいているというところもあるんですけども、こういう取組も少し広げていって地域交流の足がかりなんかにもしていけたらと思っています。

#### ◆谷口かずふみ委員

分かりました。

今いくつか課題をお伺いしたんですけども、例えば、これは要望となりますけれども、周知のところで言えば、結構団地の御高齢の方でもLINEやっている方も結構いらっしゃるんですよ、全員とは言わないですけども。だから、周知の仕方もハイブリッド形式にして、LINEでも流す、掲示板もやるみたいなことで、LINEに届けば、周りの人に声かけてくれるかもしれませんし、ちょっとそういうこともぜひ検討いただきたいというのと、あと、アンケートの中で心と体がより健康になったというのが80%超える成果が出ているんですけども、今後の課題として、できれば何か数値で見える化ということも、すぐにというわけにいかなかったり、あと固定しているわけじゃないので練習に来られる方が、課題もあるかと思うんですけども、やっぱり事業をやっている効果がより見える、数値で見えるような形になっていったほうがいいんじゃないかなと思いますので、ぜひそこら辺は検討をお願いしたいと思います。

次に、観光振興の取組について伺いたいと思います。

観光振興計画で5年から8年の計画をしていて今年は折り返しになるわけですけども、入込観光客数や宿泊者数を目標値としているんですけども、令和5年、昨年の状況についてちょっと確認させてください。

#### ◎観光課長

観光振興計画の令和5年の目標値でございます。入込観光客数は2億378万人、宿泊者数、日本人でございます、それが2,074万人、宿泊者数の外国人が

238 万人と定めています。実績でございます。令和 5 年の実績は、入込観光客数は 1 億 9,111 万人、宿泊者数の日本人が 2,504 万人、宿泊者数の外国人が 323 万人となっておりまして、結果といたしましては、宿泊者数につきましては計画目標を超えておりますけれども、入込観光客数につきましては下回っていると、そういう状況でございます。

◆谷口かずふみ委員

分かりました。今、入込観光客数は目標を下回っているということ、これどういう理由というか、どう評価しているのか伺います。

◎観光課長

令和 5 年の入込観光客数でございますけれども、目標値である 2 億 378 万人に対して実績は 9 割程度でございます。これは、目標を下回っておりますけれども、令和 5 年度は県内イベントが数年ぶりに再開されたり、水際対策の緩和で急増した外国人観光客の受入れ等、これまでのコロナ禍のただ中にあった状況から、その回復局面へと移行した時期と認識しておりまして、県内市町村とか観光宿泊関連の事業者の皆様の努力があって、うまく軌道に乗せることができたのではないかとこのように考えています。

◆谷口かずふみ委員

分かりました。

じゃ、今年令和 6 年はかなりよくなるんだろうということなんだろうと思うんですけれども、一方インバウンドなんですけれども、11 月は国全体として累計 3,000 万人を突破したと、10 月の推計値ですね。本県はどんな状況なのか、お聞きしたいと思います。

◎観光課長

本県を訪れている外国人観光客数について詳細な状況を把握するデータはありませんけれども、外国人の延べ宿泊数の動向は、観光庁が公表している調査などから把握しています。

昨年、令和 5 年の本県における外国人延べ宿泊数でございますけれども、約 323 万人でございますけれども、令和 6 年度でございますけれども、現在把握できている 1 月から 8 月、8 か月間の累計で既に 300 万人を超えておりますので、昨年を大幅に上回ることは確実な状況となっております。

◆谷口かずふみ委員

分かりました。かなり増えてきているということなんです。

一方で、計画の中では県内七つのエリアに分けて、それぞれの観光振興を進めているようなんですけれども、私、大和なんです、大和はあんまりなかなか観光地というところが少ないんですけれども、全体でいうところの相模湖・相模川流域エリアというところに大和が入っているんですけれども、この地域ってどんな特徴があるんでしょうか。

◎観光課長

相模湖・相模川流域エリアの特徴でございますけれども、観光振興計画を策定したときに把握しているこのエリアの特徴でございますけれども、日本人の日帰り観光客はほぼ本県と東京都の方で占められております。観光資源といたしましては、自然環境の割合が大きいほか、花といった割合が高いという特徴がございます。桜等々の観光資源はあるのかなと思っています。

また、現在県が収集している観光データからこのエリアについて情報を整理いたしますと、このエリアの特徴といたしましては、県が活用している人流データによりますと、2023年に観光客が多く訪れている場所が、ロマンスカーミュージアムであったりさがみ湖MORI MORI、あるいは泉の森といった博物館、レジャー関連の施設が上位となっているということでございます。

課題でございますけれども、こうした特定の観光スポットに観光客が集中している一方、エリア内を周遊するといった点が弱いことから、その他の観光スポットを周知、PRをいたしまして、エリア内とかあるいはエリア外からの誘客を促すことが重要になってくる、そのように考えています。

◆谷口かずふみ委員

じゃ、今後ちょっとPRをしっかりとやらなければいけないということなんですけれども、具体的に今どんなことをやっているんでしょうか。

◎観光プロモーション担当課長

誘客に向けた取組でございますが、例えば現在実施している歴史をテーマとしましたARデジタルラリーでは、このエリアの中にチェックポイントを11か所設置しています。また、県が今年4月から観光情報ウェブサイトや県公式YouTubeチャンネル、かなチャンTVなどで公開している観光プロモーション動画の中では、例えば大和市の神奈川大和阿波おどりや座間市ひまわりまつり、海老名市のロマンスカーミュージアムなどを、ドローンを使用したダイナミックな映像などで紹介しております。

◆谷口かずふみ委員

分かりました。

今、その動画をウェブサイトで公開しているということなんですけれども、せっかく結構お金かけてつくっているんだらうと思うんですけれども、ほかに活用していくのかどうか、その点について伺いたいと思います。

◎観光プロモーション担当課長

本年度、鉄道事業者や観光協会等と連携した取組としまして、この観光プロモーション動画を活用したPRを行っておりまして、特に相模湖・相模川流域エリアの誘客を目的としまして、12月16日から京王線の電車内でこのエリアの動画を放映する予定でございます。

また、ほかのエリアの動画につきましても、小田急線や相鉄線、東横線など他の路線の車内等で放映する予定でございます。

また、このほかにも県主催イベントや県内の市町村や観光協会、観光施設等での活用も図っております。

◆谷口かずふみ委員

もうすぐですね、京王線で流し始めると。ほかのところも鉄道等でやるということなんですが、ちょっと時間もないんで、最後にお伺いしたいと思いますけれども、このそれぞれ七つのエリアの特徴を生かして今後どのように振興策を進めていくのか、最後に伺いたいと思います。

◎観光課長

この計画におきまして県として七つのエリアを提示している趣旨でございますけれども、本県は自然とか歴史、伝統文化など多種多様な観光資源がございます。客観的なデータを踏まえましてエリアの特徴を捉えた上で観光振興施策を展開したいということで考えています。例えば相模湖・相模川流域エリアでございますけれども、自然が豊かで湖を利用したレジャーが活発な地域ですね。あと、逆に人口が多くて文化的な交流が活発な大和市のような地域などを包括したエリアとしてございますので、そのエリアの特徴として捉えて、それぞれに応じた施策を展開したいと。

県といたしましては、実際の観光施策を実施するに当たりましては、エリア内の市町村や観光協会、観光事業者等々と連携いたしまして、役割分担など取組を整理する必要があると考えています。七つのエリアの特徴に基づきまして、地域と連携して観光振興施策を展開することで地域経済の活性化につなげたいと考えています。

◆谷口かずふみ委員

終わります。ありがとうございました。